



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

患者さんの権利と意思を尊重します。

安全で優しいチーム医療を提供します。

倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。

地域医療連携の促進を図ります。

骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。

職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第59号
2017.10

発行責任者 院長 朝妻 孝仁

お薬手帳の重要性について

皆さんが飲まれている薬について教えてください。

「さてどうしよう」

「何で？」

皆さん悩まれるかもしれません。

「いっぱい飲んでるからなー」

「全部覚えてないや」



そんな時に役にたつのがおくすり手帳です
ご利用されている方も多いと思いますが、ここで復習です。

「何で？」

お薬には手術や特定の検査の時に飲むのをやめなければいけないお薬がたくさんあります。

普段、血液をさらさらにするようなお薬は、手術の時、血が止まらなくなったりするため、一定の期間、飲むのをやめていただきます。

中止しなければいけない薬を飲み続けていると、予定されていた手術や検査が受けられずに、先延ばしになってしまうことがあります。

せっかく決まっていたものが、また随分さきになってしまうこともあるので、注意が必要です。

事前に医師等から指示されているかもしれませんが
病院ではもう一度確認させていただきます。

必ず飲んでるすべての薬を教えてください。

そのためにもおくすり手帳を持ってきて見せて下さい。



でも

「おくすり手帳って何？」

患者さんが飲んでる薬の記録？

皆さんがかかりつけの医師から処方された薬の記録です。

皆さんが使用しているお薬の名前や使い方などに関する情報を記録したものです。

かかりつけの医師以外の別の医師、看護師、薬剤師等へ飲んでおられる薬の情報を伝えるものです。

また、色々なことを書き込むことも可能です。
過去のアレルギーや副作用の経験を記録。
皆さん御自身がお薬を飲んで気がついたこと、気になったこと。
薬の効き目や飲んでからの体調変化。
気持ち悪い、ふらふらする、かゆい、眠いなど。

そのほか

「この薬は、飲んだり飲まなかったり」

「次回からやめると言われた」

「必要ないと思った」

「飲みにくい」

「よく飲むのを忘れる」

自分で飲まなくなったことなどなど、相談したいこと、言いたい事や伝えたい事を書いておいて下さい。

なんでも書き込んで下さい。



また、飲んでいるすべての薬を1冊で記録することが大切です。
同じお薬が重なっていないか、不都合な飲み合わせはないかなど調べることができます。

そして、別の病院で医師の診察を受けるとき、調剤薬局に行くとき、必ずお持ちになって、見せて下さい。

皆さんの飲まれているお薬のことを色々伝えることができます。

新任医師の紹介



整形外科医師 松川 啓太朗（まつかわ けいたろう）

10月から村山医療センターに赴任いたしました松川啓太朗と申します。防衛医大出身で、これまでは一般診療に加え、自衛隊医療・災害派遣等の活動を行ってまいりました。整形外科の中でも、特に脊椎脊髄外科を専門にしています。保存的療法から手術治療まで行っていますが、頰や腰の痛みや手足の痛み・しびれを我慢してこられた患者さんにとって、より安全でお体への負担が少ない手術を心掛けております。また、低侵襲脊椎手術、脊椎バイオメカニクス、コンピューターシミュレーションを併用した手術の研究もしています。

何かありましたらお気軽にご相談ください。どうぞ宜しくお願い致します。

手外科専門医による診療が始まります

11月から毎週火曜日午前中に、手外科の診療が始まります。手外科とは腕全体を主に治療する診療科目になります。けんしょう炎、ばね指、ガングリオン等といった症状や手首の痛みや腫れ、しびれなどで気になる症状がある方はお気軽にご相談下さい。外来は予約制となっておりますので、下記の電話番号からご予約下さい。



担当：加藤 直樹医師

診療日：毎週火曜日 午前中

専門分野：末梢神経損傷、手指の機能再建

予約電話番号：042-561-1698 または 042-561-0965

予約受付時間：月～金（祝日除く） 13：00～17：00

村山医療センターにおけるHALについて

リハビリテーション科
理学療法士 栗原 淳

当院で行っているロボットスーツHAL自立支援型による歩行訓練をご紹介します。

HAL (Hybrid Assistive Limb) は身体機能を改善・補助・拡張・再生することができる世界初のサイボーグ型ロボットであり、身体にHALを装着することで「人」「機会」「情報」を融合させ、身体の不自由な方をアシストしたり、いつもより大きなチカラを出したり、さらに、脳・神経系への運動学習を促すシステムです。動作原理は微弱な生体が発生する電位情報や当該ロボット内部に組み込まれたセンサ情報（床からの反発の力、関節の角度）をアプリケーションで処理し、運動の意思に応じて身体動作補助に必要なモーターの力を発生させて関節の動きを補助します。また、装着者の意志によって、(脳→脊髄→運動神経→筋骨格系→HAL)、そして (HAL→筋骨格系→感覚神経→脊髄→脳) という脳・神経系と連動した身体とHALとの間で双方向性の伝達が構成されることとなります。HALにより期待される医学的効果としては、神経の再生、運動神経・筋の保護効果、使わないことで起きる筋肉の萎縮などの治療が挙げられます。

また、HALは外骨格型のロボットで、HAL自体では立ってられないため訓練の際はつりさげ式の歩行器を使用します（写真）。介助は1名～2名必要で、当院ではHALを使用するための安全講習を受けた理学療法士と助手が実施しています。

当院でのHALを使用しての結果については、1週間に2回以上を2か月程度実施し、5名のうち4名において歩行速度や耐久性が増加しました。

これまで、HALによる歩行訓練を経験して、ほかの訓練と併用しているため、必ずしもHALのみの効果とはいえない難しいですが、併用することで歩行能力アップを加速させる効果があるのではないかと考えられます。



当院で使用しているHALとつりさげ式歩行器（ROPOX ALL IN ONE）の訓練風景（左）
ロボットスーツHALの正面（右）

安心して手術を受けていただくために

手術室・中央材料室
看護師長 齋藤 美晴

当センターの手術室では整形外科と外科の手術を行っています。手術件数は年々増加しており、平成27年度は1,101件、平成28年度は1,339件と112%の増加となっています。

初めて手術を受ける方も多く、患者さんやご家族は多くの不安を抱えていると思います。手術室の目標は「安心して安全な手術が提供できる」ということです。このごく当たり前のことを提供するためにどんなことをしているのか、普段患者さんやご家族が知ることのない手術室の内側の仕事の一部をご紹介します。

手術室のスタッフは看護師長を含めて看護師が15名、看護助手1名、臨床工学士(ME)1名で構成されています。麻酔科は常勤の医師2名を含めて毎日3～5名体制をとっています。



まず手術が決まると「どんな方法で行うのか」が決まり、必要な機材・器械をそろえ安全に使用できるか確認して準備することからはじまります。手術中に足りないものがあったり、破損したりしないように自分たちの目でしっかりと確認します。また手術は麻酔器や手術用顕微鏡、ナビゲーション装置など機械類も多く扱いますので、臨床工学士が日々の点検やメンテナンスを

行って最善の状況で手術が出来るようにしています。

手術前日には患者さんのもとへ術前訪問に伺います。直接患者さんにお会いして、安全に手術を行うための情報収集をさせていただくのが目的です。患者さんの体型や関節の動きなどを確認させていただき、手術中に体や手足の位置が無理のない体勢をとれるように調整します。皮膚や口腔の状態も確認して、手術中に圧迫やずれによるトラブルを起こさないように工夫しています。看護師同士のカンファレンスや医師や麻酔科医師、皮膚排泄ケア認定看護師とも情報共有して予防対策を考えています。



また、どんなに小さな不安でもお聞きして、解決できるように協力しています。「医師や病棟看護師にはなかなか聞けなかったから安心した」「手術中のことがイメージできて良かった」と言って下さることも多くあります。手術中は麻酔で意識がなく苦痛を訴えられない患者さんに寄り添えるように、特に力を入れて訪問しています。

手術当日には、病棟看護師との協力も欠かせません。手術直前までの患者さんの状況や手術中の状況について情報交換を密にして継続した看護が提供できるように努めています。



手術後は体調が回復した時期に、患者さんを訪問しています。術後の様子を聴かせていただいて、私たちの看護を振り返り、評価して改善する手がかりとさせていただいています。気づいたことはどんなことでも話していただきたいと思います。

手術室の仕事のほんの一部をご紹介しますでしたが、いかがでしたでしょうか。「安心で安全な手術の提供」は簡単で当たり前のように思われるかもしれませんが、患者さんの病状や思いや満足度は一人ひとり違ってきます。一人ひとりの方が村山医療センターで手術を受けて良かったと思っていただけるように手術室一同努力してまいります。



栄養管理室の紹介

主任栄養士 丸林 美恵

村山医療センターの栄養管理室は診療部内科に属していて、管理栄養士4名、事務2名、調理師8名、調理補助3名で活動をしています。栄養管理室は「給食を作っているところ」のイメージが大きいと思いますが、まさに365日休みなく、250人前後の入院患者さんの食事を作っています。患者さんの治療に合わせて常時20～30種類の食事を用意していて、さらにその食事を嚥下や咀嚼など様々な理由に合わせ、一口大・刻み等の形態に調整しています。だから、同じお部屋の患者さん同士で、見た目は同じ病院食でも味付けが違ったり、付加されているものが違ったりすることもあります。栄養管理室は、おいしく安全に調理された食事を提供し、患者さんの治療に貢献できることを目標にして日々頑張っています。

でも食事だけじゃありません！入院中はもちろんのこと、外来でも患者さんのサポートをしています。

病院で栄養の話をきく機会があっても、「どうせ食生活が悪いのは分かっている。注意されなくてもいいよ。」や、「頑張っているのになかなか痩せない。私、水でも太る体質なの。」等のご意見をききます。よくよく話をきくと、身体のために良かれと思ってやっていたことが治療(食事療法)を邪魔していることがあります。管理栄養士は普段何気なくおこなっている食生活の確認をして、頑張るポイントを修正することはありますが、頭ごなしに叱りません。(笑) 患者さんと一緒に、検査値が良くなるお手伝いをしたいと思っていますので、是非管理栄養士を活用してみてください。

入院中でも外来でも、食事・栄養に関することはどうぞ栄養管理室までご相談下さい。



平成29年度 骨・運動器疾患看護研修会を開催しました

教育担当看護師長 宮川 幸子

今年度も骨・運動器疾患看護研修会を10月4・5・6日の3日間にわたり、開催いたしました。

この研修会は看護師を対象に平成25年度より毎年実施しており、脊椎や関節疾患の理解、手術に関する知識、看護、リハビリテーション、地域連携など骨・運動器に関する基礎から最新の情報を織り交ぜた研修内容で構成されています。毎年、全国から40名程度の研修生を募っていましたが、今年度は病院の建て替え等の諸事情により17名を対象とした研修会となりました。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、医療社会事業専門員など様々な職種の講師による講義のほか、手術室の見学、車椅子での座圧測定や脊椎や頸部の固定に使用するコルセットの装着など様々な体験も行いました。「患者さんの状況や気持ちを理解して看護に活かせる。」「多職種から学ぶことで看護だけではない視点を得られた。」「最新の知識や術式を学べた。」などの感想があり、充実した研修となったようでした。

高齢社会となっている現在、治療の必要の有無に関わらず、骨・運動器に関して何らかの不都合を感じている方が多いと思われれます。患者さんとなった方たちが、治療した後も安心して地域で生活ができるように支援できる看護師の育成にこれからも取り組んでまいります。



「市民公開講座」を開催しました。

庶務係長 中西 聖悟

村山医療センターでは、主に武蔵村山市民の方々を対象とした「市民公開講座」を定期的で開催しています。今回で20回目の開催となり、10月7日（土）に武蔵村山市民総合センターをお借りして「その胸やけ・胃もたれ気になりませんか？～がんは、早期発見が大切です～」というテーマで開催しました。会場には53名の方が来場されました。

朝妻院長による開会の挨拶の後、大石外科部長から『がんの症状って知ってますか？』とのテーマで講演しました。多くの方々が知っているような著名人を例にし、また、がん細胞自体は3人に2人は発生しているなどの内容から、来場者の方からも“びっくり”という声がありました。また、検査の目的や当院で実施している内視鏡下手術の利点についても手術のビデオを見せて説明し、好評でした。

次に飯野外科医長から『逆流性食道炎ってどんな病気だろう？』とのテーマで講演を行いました。逆流性食道炎がどのような症状であるか、どのような検査を行い、診断を下すのかなど分かり易く説明し、勉強になったという声を頂きました。

3番目には近藤栄養管理室長から『のむとかむでは大違い?!』とのテーマで講演を行い、食事の際のかむ回数による胃の負担の変化や油分の適量摂取の重要性などについて説明しました。

最後の演題では青嶋主任言語聴覚士と清岡看護師のふたりから『食事中に“むせる”ことはありませんか？』と題して、食べ物の飲み込みや口腔ケアについて講演を行い、適切な栄養摂取や誤嚥の予防について説明しました。高齢者の直接死因の最も多くが肺炎であり、その肺炎も誤嚥によることが大きな理由となります。講演では誤嚥性肺炎の予防についても説明されました。

講演終了後には健康相談を開催し、市民の方の悩みや質問をお聞きするとともに、専門職としてアドバイスをさせていただきました。

今後も市民の皆さんの健康に役立つ公開講座を開催して参りますので、是非とも興味を持って頂きたいと思っております。



(朝妻院長の挨拶)



(大石部長による健康相談)

病棟新築整備工事の地鎮祭

平成29年8月22日、病棟新築整備工事の地鎮祭が行われました。地上6階建て、303床の新病棟が平成30年度完成を目指して着工いたします。

“患者の皆様の視点に立ち、良質で高度な医療を提供する”という当院の理念はこれからも忘れることなく、今後とも職員一同、全力で頑張っまいりますので宜しくお願い申し上げます。



自衛消防審査会 敢闘賞受賞

9月5日(火)に北多摩西部地域の自衛消防審査会が開催され、当院看護部から男子隊、女子隊の2隊が参加しました。参加17隊のうち、女子隊が敢闘賞を受賞しました。男子隊も頑張りましたが惜しくも入賞できず来年へのリベンジを誓いました。



外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一般外来 ※受付時間 (初診:8時30分～11時まで)
再診:8時30分～12時まで 平成29年10月1日現在

診療科等	月	火	水	木	金	備考	
内科	片寄	岡田	片寄	岡田	岡田		
外科	大石	飯野	平野	飯野	大石		
整形外科	再診	脊椎 ○朝妻 ○竹光	◎谷戸 ◎藤吉 ◎安田 加藤	○○金子 山根 笹治	○○許斐 矢内	小見山 松川 辻	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清水	窪田	吉原	笹崎	股・膝関節・下肢
	一般						
	初診	交替制					
リハビリテーション科	小川	植村	竹内		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…竹内 第2金…植村 第3金…小川	
歯科	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	予約制	

■ 専門外来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備考
内科リウマチ				片寄 (13:00～)		予約制
側弯			金子 (13:30-15時)	金子 (第2-4週13:30-16時)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/竹内 (13:00～)					予約制
禁煙外来		岡田 (午前11:30～)		岡田 (午前11:30～)	岡田 (午前11:30～)	予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

診療について

診療日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)
診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分
再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科) 随時受付けております。
専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。
毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1
TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210
URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>